

改善報告書

大学名称 武庫川女子大学 (評価申請年度 2015年度)

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
	指摘事項	文学研究科日本語日本文学専攻と英語英米文学専攻、生活環境学研究科食物栄養学専攻と生活環境学専攻において、学位授与方針を修士課程・博士後期課程で区別していないので、各学位課程にふさわしい内容を策定されるよう改善が望まれる。
	評価当時の状況	各研究科の学位授与方針については、各研究科の専攻長会議等で検証されていたが、大学全体として検証を行っていなかった。
	評価後の改善状況	文学研究科、生活環境学研究科の4専攻については、修士課程・博士課程の学位授与方針を各専攻長が中心となって専攻内で検討を進めた。その後、「自己評価委員会」のもとに組織された「認証評価結果に対する改善計画検討チーム」で平成28年7月20日に大学全体として検討し(資料1-1-1)、平成29年3月15日開催の自己評価委員会において「認証評価結果に対する改善・改革への取り組み」として審議・決定した(資料1-1-2)。平成28年4月より修士課程・博士後期課程で区別し、ホームページ等で公開している(資料1-1-3)。以上のように、適切に改善が図られた。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等		
1-1-1 認証評価結果に対する改善計画検討チーム議事録		

(平成 29 年 3 月 15 日開催) 1-1-2 自己評価委員会議事録 (平成 29 年 3 月 15 日開催) 1-1-3 武庫川女子大学ホームページ http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html					
<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

No.	種 別	内 容			
2	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針			
	指摘事項	生活環境学研究科生活環境学専攻において、教育課程の編成・実施方針を修士課程・博士後期課程で区別していないので、各学位課程にふさわしい内容を策定されるよう改善が望まれる。			
	評価当時の状況	各研究科の教育課程の編成・実施方針については、各研究科の専攻長会議や研究科委員会において検証されていたが、大学全体として検証を行っていなかった。			
	評価後の改善状況	生活環境学研究科については、修士課程・博士課程の教育課程の編成・実施方針を専攻長が中心となって専攻内で検討を進めた。その後、「自己評価委員会」のもとに組織された「認証評価結果に対する改善計画検討チーム」で平成28年7月20日に大学全体として検討し（資料1-1-1）、平成29年3月15日開催の自己評価委員会において「認証評価結果に対する改善・改革への取り組み」として審議・決定した（資料1-1-2）。平成28年4月より修士課程・博士後期課程で区別し、ホームページ等で公開している（資料1-1-3）。 以上のように、適切に改善が図られた。			
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等				
<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

No.	種 別	内 容
3	基準項目	4. 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容
	指摘事項	大学院博士後期課程において、臨床教育学研究科と生活環境学研究科は、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせたカリキュラムとはいえないことから、課程制大学院制度の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供することが望まれる。
	評価当時の状況	臨床教育学研究科と生活環境学研究科の博士後期課程では、コースワークとリサーチワークが明確になっておらず、シラバスからもコースワークと確認できる科目を設定していなかった。
	評価後の改善状況	<p>各専攻長が中心となって専攻内で各専攻のカリキュラムの検討を進めた。その際、当該研究科のカリキュラムの中にコースワークとなる科目を設定し、コースワークとリサーチワークをつなぐカリキュラムに編成した。その後、大学全体として平成30年3月13日開催の「自己評価委員会」において「認証評価結果に対する改善・改革への取り組み」として審議・決定した(資料1-3-1)。</p> <p>臨床教育学研究科については、平成30年度入学生のカリキュラムより、臨床教育学専攻の1年前期に「臨床教育学特別講義」「教育学特別講義」「臨床心理学特別講義」をコースワークとして新設した(資料1-3-2)。</p> <p>生活環境学研究科については、平成30年度入学生のカリキュラムより、生活環境学専攻、食物栄養学専攻、及び、建築学専攻の博士後期課程の1年前期にそれぞれ「生活環境学特殊演習」「食物栄養学特殊演習」及び「先端建築学演習」をコースワークとして新設した(資料1-3-3)。</p> <p>このほか、従来のリサーチワークも開講しており、コースワークとリサーチワークを適切に</p>

	組み合わせたカリキュラムを編成している（資料 1-3-4）。
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>1-3-1 自己評価委員会議事録（平成 30 年 3 月 13 日開催）</p> <p>1-3-2 臨床教育学研究科コースワーク</p> <p>1-3-3 生活環境学研究科コースワーク</p> <p>1-3-4 大学院履修便覧（抜粋）</p>	
＜大学基準協会使用欄＞	
検討所見	
改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

No.	種 別	内 容
4	基準項目	5. 学生の受け入れ
	指摘事項	<p>過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、音楽学部において、演奏学科が0.83と低いので、改善が望まれる。収容定員に対する在籍学生数比率について、健康・スポーツ科学部が1.20と高く、音楽学部において演奏学科が0.89、文学研究科博士後期課程が0.28と低いので、改善が望まれる。</p>
	評価当時の状況	<p>学生の受け入れに関する適切性の検証については、毎年度の「入試案内」や入試問題作成に合わせて入試センターが中心となり、学科ごと、教学局研修会や広報入試委員会において行っていた。また、各学部ともに成績追跡調査を行い、入試形態の妥当性を検証している。大学院においては、各専攻で検証し、入試センターで確認するとともに学生募集および入学選抜試験の実施時期や回数等の検証は大学院委員会で実施していた。</p> <p>しかし、大学全体で組織的な検証は行われていなかった。</p>
	評価後の改善状況	<p>健康・スポーツ科学部では、文部科学省の定員厳格化の指針に基づき合格者数を減少させ定員管理の厳格化を推し進めた結果、令和元年度の収容定員に対する在籍学生比率については、1.08と改善されている（資料1-4-1）。</p> <p>演奏学科では、令和元年度の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、0.81、収容定員に対する在籍学生数比率については0.76と改善されなかった（資料1-4-1）。高校訪問の強化、オープンキャンパスにて体験型プログラムの実施、附属高生への広報およびレッスン強化（資料1-4-2）、関係者への学部パンフレットの送付（資料1-4-3）、大学文化祭時に募集に係る資料を音楽館内に設置する等、様々な取り組み継続することで志願者増、入学者の安</p>

		<p>定確保に努める。</p> <p>文学研究科博士後期課程では、令和元年度の収容定員に対する在籍学生数比率については、0.22 と改善されなかった（資料 1-4-1）。そのため、オープンキャンパス（入試説明会）等の広報活動に努める。専攻ごとの取り組みとして、日本語日本文学専攻では、特別学期の学科プログラムで「研究へのいざない」という科目を開講し、学問研究の意義を説くとともに、学部生の大学院進学を勧奨する。博士後期課程進学の意義についても、これまで以上に力点を置いて説明し、学生の理解が深まるよう努める。英語英米文学専攻では、学部生の3年および4年のゼミにおいて、学ぶことの意義を説き、大学院進学を勧奨し、専攻個別の進学説明会を開催する。</p> <p>これらの状況を自己評価委員会に報告し、全学的な検証の場を設けることとしている。</p>			
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>1-4-1 大学基礎データ 表3及び表4</p> <p>1-4-2 音楽学部 2019年度オープンキャンパス タイムスケジュール</p> <p>1-4-3 音楽学部 学部パンフレット</p>					
<p><大学基準協会使用欄></p>					
<p>検討所見</p>					
<p>改善状況に対する評価</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>3</p>	<p>4</p>	<p>5</p>

2. 改善勧告について

なし